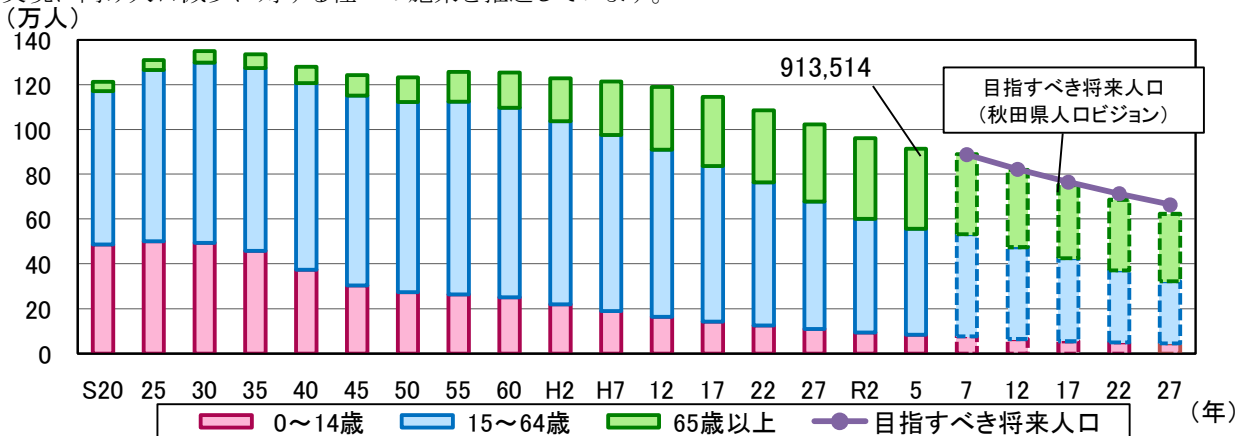


2. 人口の動向

(1)秋田県の人口の推移と将来推計・展望

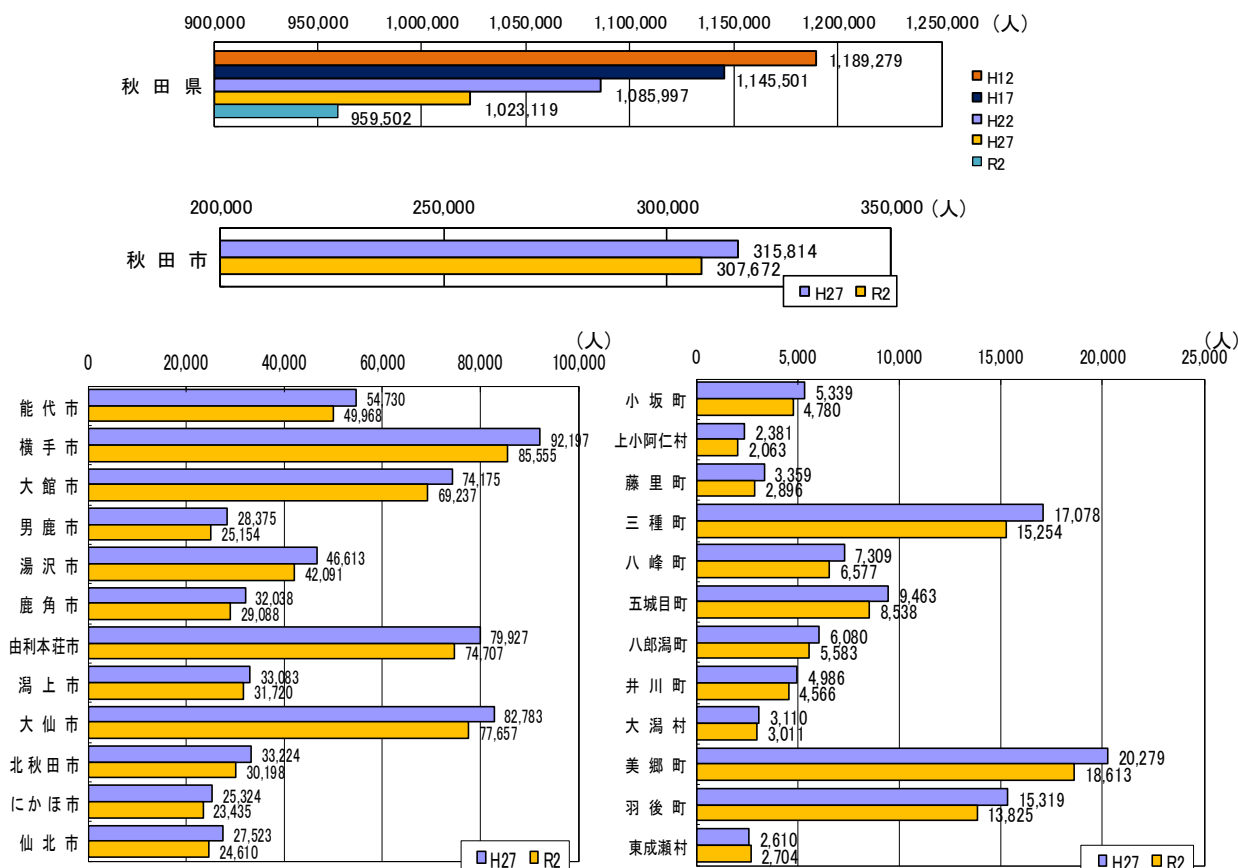
秋田県の人口は、ピークであった1956年(昭和31年)の約135万人から年々減少し続けており、ピークから67年後の2023年(令和5年)には、約44万人少ない約91万人となっています。国立社会保障・人口問題研究所の推計やこれに準拠した推計によると、今後も県人口の減少が続くと予測されるが、平成27年に策定(令和4年3月改訂)した「秋田県人口ビジョン」では、2065年(令和47年)の「目指すべき将来人口」を約51万人と設定し、その実現に向け人口減少に対する種々の施策を推進しています。



(令和2年まで総務省 国勢調査、令和5年は秋田県調査統計課 年齢別人口流動調査)
(令和7年以降は国立社会保障・人口問題研究所の推計、目指すべき将来人口は秋田県人口ビジョン)

(2)市町村別人口

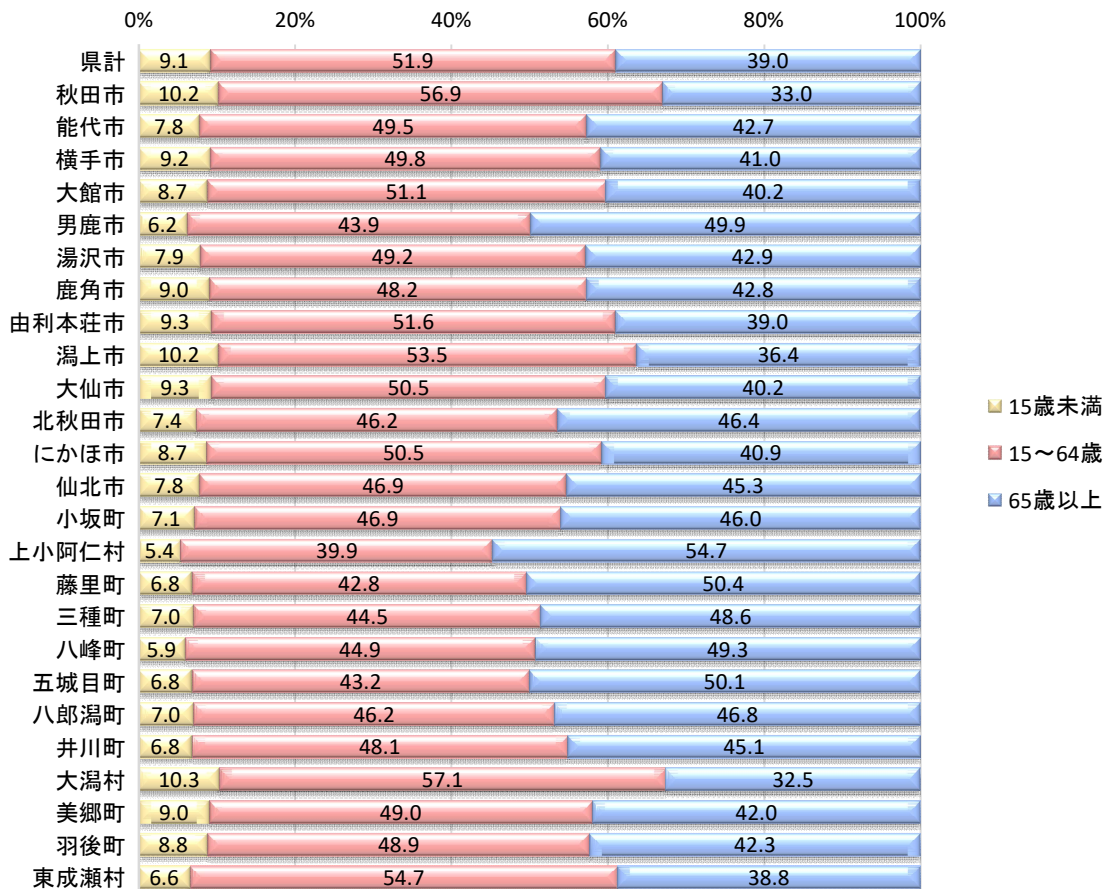
国勢調査によると、県及び市町村の人口は次のとおりです。
※「平成17年」の数値はその後合併した市町村の人口を合計したものです。



(総務省 国勢調査<秋田県調査統計課 令和2年国勢調査に関する不詳補完結果>)

(3)市町村別年齢3区分人口比率(令和5年)

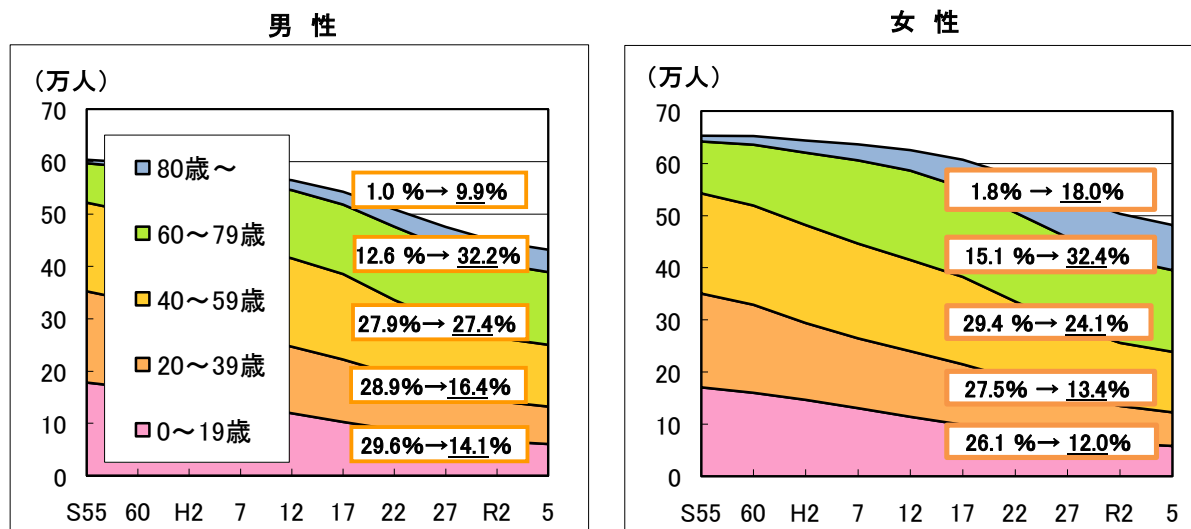
市町村別の年齢3区分による人口比率は次のとおりです。



(秋田県調査統計課 令和5年秋田県年齢別人口流動調査)

(4)年齢別人口構成

年齢を20歳単位(19歳まで、20～39歳、40～59歳、60～70歳、80歳以上)で区切り、その構成比を表すと次のとおりになります。昭和55年と令和5年で比較すると、男女ともに60歳以上の構成比が増えていることがわかります。その一方で、39歳以下の構成比は男女ともに減っています。

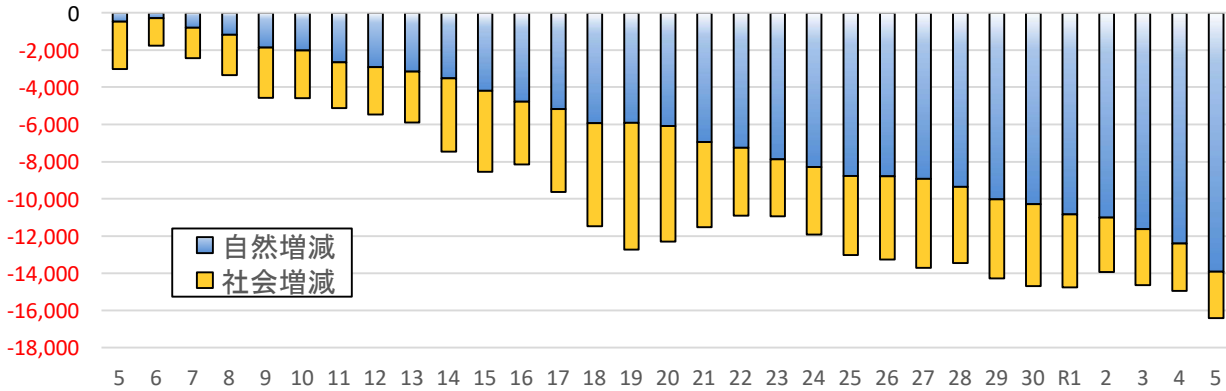


(総務省 国勢調査、R5年は秋田県調査統計課 秋田県年齢別人口流動調査)

(5)秋田県の人口動態の状況

秋田県の人口動態を見ると、社会動態は、常に転出者数が転入者数を上回る社会減となっていて、転出超過のほとんどが15～24歳の年齢区分によるものです。移住定住促進施策の推進により、令和元年には、平成24年以来7年ぶりに社会減が4千人を下回り、令和2年には3千人を下回るなど徐々にその成果が現れています。

一方、自然動態は、平成5年に初めて死亡者数が出生者数を上回る自然減の状態となり、その後は、年々減少幅が拡大しています。

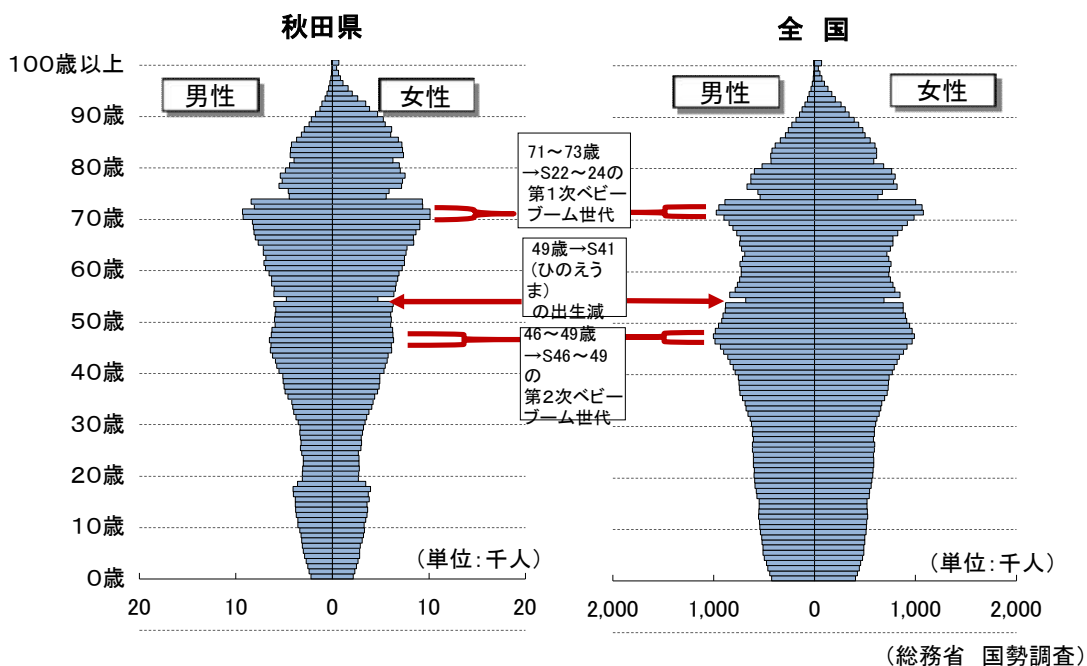


	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
自然増減	-6,938	-7,254	-7,868	-8,293	-8,768	-8,785	-8,921	-9,360	-10,032	-10,280	-10,840	-11,012	-11,636	-12,402	-13,909
社会増減	-4,586	-3,658	-3,071	-3,622	-4,243	-4,486	-4,789	-4,100	-4,253	-4,410	-3,917	-2,910	-2,992	-2,557	-2,492
(うち15～24歳)	-3,957	-3,603	-3,431	-3,201	-3,742	-3,697	-3,624	-3,607	-3,480	-3,538	-3,211	-3,292	-3,110	-2,386	-2,306

(平成5年まで秋田県調査統計課 秋田県の人口と世帯、平成6以降同課 秋田県年齢別人口流動調査)

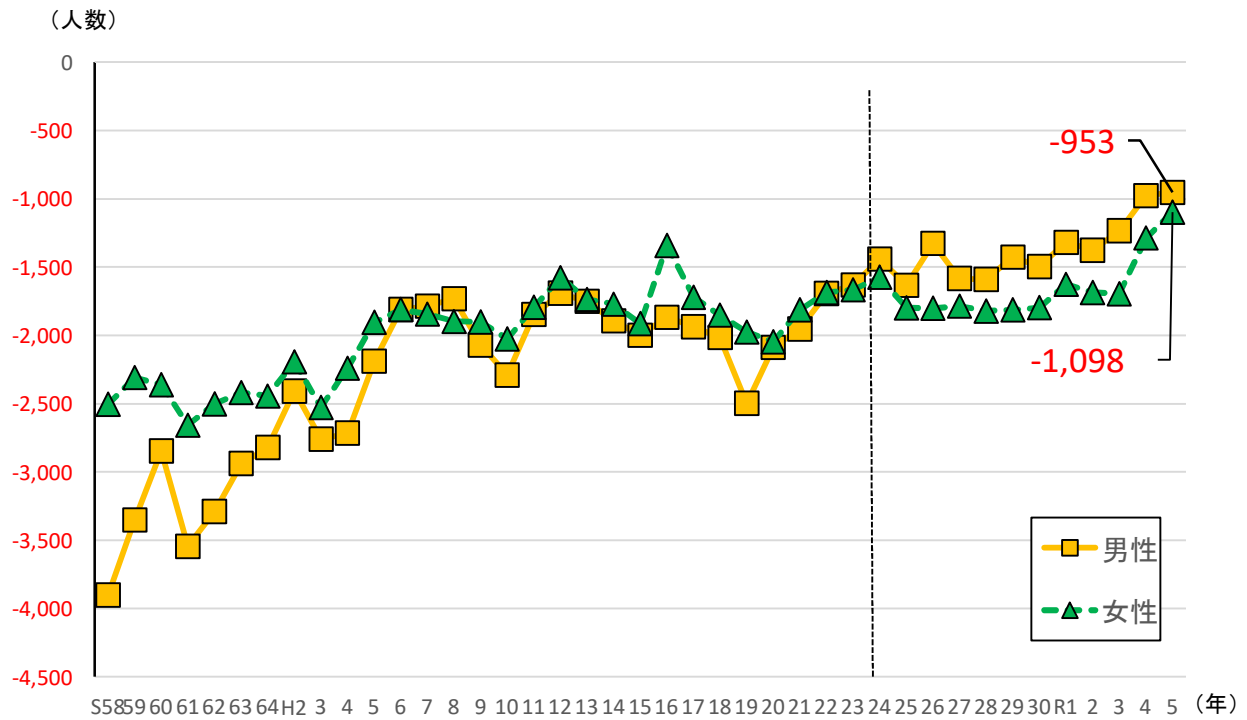
(6)人口ピラミッド

令和2年国勢調査に基づく秋田県と全国の人口ピラミッドを比較すると、秋田県の19～30歳の人口にくぼみが見られ、形の違いが明確に表れており、社会減の状況が反映されています。



(7)18～23歳人口の社会減の推移

秋田県の18～23歳人口の社会減は、平成6～8年を除いて、女性よりも男性の減少数が多い状態が続いていましたが、平成23年以降は、女性の減少数が多い状態に転じています。



(秋田県調査統計課 令和5年秋田県年齢別人口流動調査)